

柏市民活動ニュースレター

2025年9月発行 第38号

酷暑の夏、柏まつり・手賀沼花火大会や地域の夏祭りで 柏のまちは熱く盛り上がりました！

- ◇ 今年の柏の夏は、これまで経験したことのない「酷暑の夏」でした。
- ◇ そんな中、夏の風物詩「柏まつり」と「手賀沼花火大会」が予定通り開催され、また、町内会などの地域の夏祭りも各地で開催されたことにより、柏のまちは大勢の市民や来訪者で熱く盛り上がりました。
- ◇ この余りの暑さで活動を一旦休止していた市民活動団体もあったのではないかと推察しますが、今からは爽やかな秋の「市民活動の季節」です。私たちの力で柏のまちを盛り上げましょう！



<目次>

巻頭 柏のまちは祭りで熱く盛り上がりました！	・・・ 1
協働まちづくりサロン「障がいのあるこどもと保護者の居場所を考える」	・・・ 2
市民活動講座「これからの柏のまちづくりにおける市民活動の役割」	・・・ 3
協働まちづくりサロン「これからの柏の観光と市民活動を考える」	・・・ 4
協働まちづくりサロン「ペットと安心して暮らすことができるまちづくりを考える」	・・・ 5
たまご補助金団体の活動紹介	・・・ 6
愛らぶ基金団体の活動紹介	・・・ 7
サポートコーナーからのお知らせ	・・・ 8

第1回協働まちづくりサロン（6/28） 障がいのある子どもと保護者の居場所を考える

今年度第1回目の協働まちづくりサロンは、NPO法人te-tte Tonericoが話題提供して、障がいのある子どもと保護者の居場所にういて考えました。

障がいのある子どもは、周囲の環境になじめず孤立することが多く、また、そのような子どもを持つ保護者も、一人で困難を抱え込んでしまうことが少なくありません。NPO法人te-tte Tonericoは、そのような親子に対して、さまざまなイベントをとおして、孤立しがちな親子の居場所をつくってきました。

団体設立のきっかけはコロナ禍でした。コロナ禍に苦しむ障がいのある子を持つ母親のコミュニティづくりを目指す団体を、NPOについて何も知らない状況で、放課後等デイサービスをしている方のアドバイスを受けて立ち上げました。

設立当初はたまご補助金を活用して、Zoom交流会・勉強会・夏まつりなどを通して、さまざまな活動団体・人の出会いと連携し、活動を軌道に乗せました。

その後、社会福祉協議会地域課題解決助成金で活動を広げました。今後は、活動の3つの柱事業として、「柏市民活動交流会 Kashiwa Ring Link」「子育てサロン らくのび」「りんりん交流会のホームページ」を行いつつ、団体の活動目的である「障害理解と地域連携」を実現すべく、地域を超えた連携を目指す多様なイベントを実施していきたいと考えています。

NPO法人te-tte Tonericoのような団体が地域に存在することで、周囲の団体の活動にもいい影響があることが意見交換で報告されました。

まちづくり活動を行っている市民活動団体が、地域の子どもたちを対象としたイベントを実施する時に、障がいのあるなしに関係なくあらゆる子どもに参加してもらいたいが、障がいのある子どものサポートの経験がなくどうしたものかと思案していた時に、NPO法人te-tte Tonericoが協力してくれて非常に助かったそうです。

支援者は、視野を広く、それぞれの課題に寄り添うことができるように学ぶことが必要であると代表の佐藤さんは語ります。支援者として大切なのは傾聴。課題を抱えている人を支援者の目線で一方的に決めつけるのではなく、とにかくしっかり当事者を聴くことが大事で、そのためには気持ちだけでなく学ぶことが必要です。

今後も学び続け、その上で地域に頼れる人（聴いてくれる人）がいることを知ってもらうこと、人のつながりづくりを目的として、イベントを実施していきたいとのことです。



【日時】 6月28日（土）午前10時～12時

【場所】 ラコルタ柏5階会議室A B

市民活動 講座

第Ⅰ回市民活動講座（7/23）

これからの柏のまちづくりにおける市民活動の役割

今年度第1回目の柏市民活動講座は、NPO法人 urban design partners balloon 代表の鈴木亮平さんを講師に迎え、「これからの柏のまちづくりにおける市民活動の役割」について講義していただきました。鈴木さんは大学院生の時から「縮小時代の都市デザイン」をテーマにフィールドワークを重ね、そこでの知見を基に大学院在学中にNPOを立ち上げ、NPO法人化して全国各地で実践活動を行っています。

柏市は現在でこそ、人口微増の状況ですが、数年後には人口は頭打ち、人口減少への局面に入っていくのは避けられません。住民税に依存している柏市としては、それは非常に大きな問題であり、鈴木さんは、今までの経済成長を前提としたまちづくりから、「豊かな縮小の過程をデザイン」しつつ「地域にあるものを活かした柔軟なサービス・空間」づくりに転換していくことを提案しています。そのためには、市民はまちづくりの担い手として動くことが求められます。限られた財源を、医療・福祉・教育など本当に必要なところに使っていくために、それ以外の地域に関することは、市民に託せるものはできるだけ市民に託していくこと、そして、行政はそのための土台をしっかりと構築することが必要であると語ります。

また、土台づくりをする行政は、ただ制度をつくるだけではダメで、制度に乗って活動する市民や事業者がいるか、活動しやすい制度なのか、見極めながら運用していく必要があります。持続的なまちづくりをしていくには、ボランティアな活動にばかり依存するのではなく、地域経済を回していくことも必要で、事業者が新たなビジネスとして展開していくチャレンジができるような支援も必要です。

鈴木さんは、柏市では、カシニワ制度やそれを通して市内各地の空地、空き家の活用したイベント等を実施、具体的には広場づくりや、園芸福祉、路地裏マルシェ等の実践活動を経て、現在は道の駅しょうなんを拠点にしたまちづくりセンター事業を担っています。また、柏駅周辺の中心市街地では、柏二番街商店街で若者や市民活動や新しいチャレンジを取り込み商店街の活性化に取り組んでいます。これらの実践活動の多くは行政との関係で実施しています。これからの市民活動とまちづくりを考える時、市民と行政との対等な連携（協働）は不可欠で、そのためにも相互に役割をきちんと理解し、それぞれの役割を担っていくことが必要だと考えています。

最後に「市民活動を柏の文化に」するために、「自分ごとの文化」「協働の文化」「チャレンジ（実験）の文化」を掲げて講座は終了しました。

【日時】 7月23日（水）午後6時30分～8時30分

【場所】 パレット柏 ミーティングルームE

柏市民活動講座
これからの柏のまちづくりにおける市民活動の役割

7/23（水） 18:30～20:30
パレット柏ミーティングルームE

対象：柏市在住・在勤・在学の方、テーマに関心のある方 申込先着20名

「市民主体のまちづくり」の現在

より多様化が進み、大きく変化していく中で
持続可能なまちづくりがどうあるべきか
市民活動の視点から考えます

講師 鈴木亮平氏
NPO法人 urban design partners balloon 代表
株式会社パレット 代表取締役
株式会社あじまる 副代表
株式会社MieHill 代表取締役
東京大学大学院新領域創成科学研究科・学際動員

申し込み・問い合わせ
市民活動サポートコーナー
04-7163-1143（9:30～17:45 月曜休）
sksc@city.kashiwa.chiba.jp

第2回協働まちづくりサロン（8/16） これからの柏の観光と市民活動を考える

本サロンでは、観光関連の市の担当課と市民活動団体が、それぞれの施策や活動状況を発表した上で、これからの柏の観光のあり方や市民活動団体等との連携・協働について意見交換しました。

■日時：2025年8月16日（土） 13時30分～16時

■場所：パレット柏 多目的スペースA

■出席者

【発表者】 柏市商工観光課、シティプロモーション課、柏市観光協会、柏観光プロダクション

【公募市民】15人、【市民活動支援課】1人、【柏市インターンシップ生】2人、【市民活動サポートコーナー】2人、【合計】20人

■施策・活動の報告

①柏市観光基本計画のポイント（柏市商工観光課）

- ・「柏市ならではの観光のあり方」を市内外に示すべく、令和5年度に新しい柏市観光基本計画を策定
- ・重点分野は＜1＞手賀沼及び手賀沼周辺における観光振興、＜2＞柏駅周辺におけるタウンツーリズム、＜3＞スポーツツーリズム・スポーツタウン柏

②シティプロモーション課の施策展開方針

- ・課のミッションは、「転入者純増・定住促進」への寄与（主に市外の子育てファミリー層向け）
- ・＜1＞市外居住者の「柏市」認知度UP・関心喚起→来訪、＜2＞市内での実体験を通じた好イメージの刷り込み、＜3＞ターゲット層の選択肢「柏市」の想起率・選択率の向上を目指す。

③柏市観光案内所「まるっと柏」の運営方針

- ・今年度より、インフォメーションセンターが閉鎖し、新たに一般社団法人柏氏観光協会が柏市観光案内所「まるっと柏」の運営を開始した。
- ・柏市商工観光課が所管し、これまでと異なり、観光案内・情報発信に特化した業務を行っている。

④柏観光プロダクションの活動報告

- ・フットパスツアーの手法で、歴史・文化資源や自然・景観資源など、身近な地域の魅力を発掘し、広く市民に伝え、郷土愛と誇りを育む活動を行っている。

■意見交換（主な意見）

- ・市外からアートイベントを観に来た人が柏に引越した事例もある。
- ・優良な団体活動がメディアにとり上げられれば、全国から人が来る。
- ・教育コンテンツは、「住みたい」と思わせる強力な要素になる。
- ・柏レイソルのアウェイサポーターに柏の情報誌を配る市民団体の取組は素晴らしい。
- ・歴史のある神社・仏閣が柏市内に沢山あり、七福神巡りなどの取組みも見られる。
- ・これだけ市民活動団体があることは柏市の資産。持続可能な活動をすることが重要なので、DMOのようなプラットフォームで情報発信することも考えられる。

■担当者所感（市民活動サポートコーナー 及川）

- ・本サロンを通して、広域から人を呼ぶ有名な観光資源の少ない柏市では、柏市民や近隣市の住民を主なターゲットに、身近な地域の魅力を発掘し、これを内外に広く伝えることにより、柏に来てもらう、柏をもっと好きになってもらうことが、「柏らしい観光」の中心になることが確認・共有できたと言える。
- ・その際、本サロンで紹介した多様で多彩な市民活動団体の活動は重要な「観光コンテンツ」であり、これらを持続可能な取組みとして維持・継続・発展させることが重要になる。
- ・行政としても、そのための仕組みを構築し、市民活動団体を育てる意味で、優良な取組みをPR・プロモーションするなどの役割を果たすことが求められる。



今年度第3回目の協働まちづくりサロンは、かしわ動物福祉・共生協会とNPO法人にゃん2から「ペットと安心して暮らすことができるまちづくり」について話題提供と、意見交換しました。

かしわ動物福祉・共生協会は、愛護動物を中心とした動物福祉向上のための普及啓発、地域の動物愛護活動全般への協力、動物との防災・減災に関する普及・啓発活動等、人と動物が安心して共生できるまちづくりに取り組む市民公益活動団体ですが、設立のきっかけは、高齢者とペットの課題に対する対策の一つとして保護動物のアットホーム事業をはじめたことです。

アットホーム事業とは、高齢やウイルス陽性で譲渡希望者が少ない猫と、年齢制限等による譲渡ができない高齢者や単身者を、職員によるサポートを介して、譲渡ではなく一時預かりで結びつける事業です。高齢者・単身者でも動物との生活が楽しめ、アニマルセラピー効果が期待できること、高齢者の安易なペット購入を抑制すること、施設に収容された動物が温かい家庭で過ごす時間が増えることなど、人と動物双方にとってメリットが多く今後の普及が期待されます。

動物の「適正飼育」とは、「動物の習性や周辺環境に配慮しつつ、動物の健康と安全を確保し、周辺住民に迷惑をかけないように終生責任をもって飼育すること」であり、そのことを周知、啓発するために、勉強会、動物の保護活動、譲渡会など、さまざまな活動をしています。令和7年度のたまご補助金を獲得して「柏市のペット防災と適正飼育啓発事業」も実施しています。

NPO法人にゃん2は、東葛地域を中心に主に地域猫のTNRをしています。TNRとはT=TRAP（つかまえる）N=NEUTER（不妊手術する）R=RETURN（元の場所に戻す）の頭文字を取ったもの。地域猫活動の他にも、子猫の保護、怪我や病気の治療、保健所や動物愛護センターから引出、行政の殺処分ゼロへの協力、保護猫たちの里親探しの活動も行っています。

TNR活動の様子を写真を中心に紹介していただき、写真の猫の表情が少しずつ柔らかくなっていく様子が意義のある活動であると感じさせる活動紹介でした。

今回のサロンには大学生も参加していました。その中の1人のコメントです。「昔から自分にとって動物は身近な存在だったが、適正な飼育をしているとはいえず、放し飼いやリードなしで散歩も行っていたので、今回の協働まちづくりサロンで2つの団体の話をうかがったことで、とてもよくないことであったという認識を持つことができた。地域差はあるものの、全国で動物を正しく、責任を持って飼育できるひが増えるようにどうやって情報発信をしていけばよいか考えさせられた。」

【日時】 8月24日（日）

午前9時30分～11時30分

【場所】 パレット柏 ミーティングルームE



たまご 補助金

柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金）団体の活動 紹介（かしわ動物福祉・共生協会、青森ねぶた祭文化振興会）

柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金）を活用して、令和7年度は、設立間もない6つの市民公益活動団体が活動をします。ニュースレターでは、順次、たまご補助金団体の活動状況をお伝えしますので、新しい仲間たちの活動に注目してください。

■団体名

かしわ動物福祉・共生協会（KAWCA）

■団体紹介

KAWCAは「柏市動物愛護ふれあいセンター」の収容動物のお世話ボランティアや適正飼育の啓発セミナーなどを行い、さまざまな面からサポートすることで、「動物愛護団体」や「動物保護団体」等の負担を減らし、収容動物の福祉向上と、“人と動物が安心して共生できるまちづくり”を目的とし活動している団体です。

■活動紹介（サポーター 所）

6月29日に、パレット柏で開催された「ペット防災セミナー」（講師：柏市動物愛護ふれあいセンター芳川所長）に参加しました。

柏市では災害時にペットを含め誰も取り残さない避難体制を構築するために、令和5年に「ペット避難受入れに関するガイドライン」を策定しています。ペットと避難することを「同行避難」と言い、「同伴避難」とは、避難先でペットと一緒に過ごすことを言うそうです。

同伴避難については、現在のところ市内83の避難所に限られています。普段から、近くの避難所が同伴避難可能かどうかなど、調べておくのと良いと感じました。

ペット避難の体制づくりが着々と進んでいるものの、飼い主としてペット飼育のルールを守る必要はもちろん、周囲の人々への配慮、さらに飼い主同士、ペット同士への配慮、助け合いなど、知っておかなければならないことは多岐にわたり、それを学んでおくことで「人と動物が安心して共生する」ことが出来るのですね。



■団体名

青森ねぶた祭文化振興会

■団体紹介

柏まつりで行われていた「柏ねぶた」が2023年に終了したことを受け、柏市民に根付いたねぶた文化を市民の力で継承していきたい・柏市で【ねぶたのある街】をテーマに、青森ねぶた祭という文化財の力を借りて街を元気にしよう！と2024年から活動しています。今年度は、市内各地のお祭りにねぶた囃子の演奏や、子ども向けの太鼓たたき・跳人の体験・ワークショップなどを届ける活動を行っています。

■活動紹介（サポーター 大石）

7月19日～20日に柏の葉 T-SITE で開催された「第二回柏の葉 T-SITE ねぶた祭り」にお伺いしました。二年目の開催となる今年も、ねぶた披露以外にも、日中には太鼓体験会やワークショップなども団体が実施し、一人でも・家族や友達とでも、誰もが楽しみながらねぶたに触れることのできる一日となっていました。

運営には多くのボランティアスタッフも関わられたとのこと。団体の皆さんを筆頭に、多くの方の力が集まって作り上げられた、華やかで温かみのある地域のねぶた祭が、これからも老若男女、どの世代もともに楽しめる「柏のねぶた」の一つとして各地に広がっていくことが楽しみです！



Youtube



当日の様子は Youtube にてぜひご覧ください！



日頃の活動についてはWEBサイトや団体の各SNSもぜひご覧ください。



団体 HP



Instagram

柏・愛らぶ基金団体の活動紹介

柏市民公益活動促進基金（柏・愛らぶ基金）は、市民の皆様からの寄附金を活用して市民公益活動を支援する制度であり、現在、保健福祉や環境など様々な分野で活動している 25 団体が基金団体として登録しています。ニュースレターでは、順次 基金団体を紹介しますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



(基金の詳細)

北柏楽しいことやっちゃおうプロジェクト

“北柏”と呼ばれる地域の価値を上げていくことをミッションとしたエリアマネジメント団体です。北柏に暮らしている人、また訪れる人が「ここは楽しい！」を具現化することを仕掛け続けています。主な活動は「北星照ラス・手賀沼太鼓サミット」「キタカシワハロウィンナイト」など各種イベントの開催や都心に最も近い自然林「北星照ラス」や大堀川、その中の柏市内唯一の「島」の整備や活用、地域のまちづくりの企画や課題解決のアクションを行っています。5年後の北柏の価値が変わっていくことをご期待ください。



(団体の詳細)



一般社団法人 セカンドライフファクトリー

東京大学高齢社会総合機構（IOG）が主催したシニアのための就労セミナーから生まれた団体です。アクティブシニア世代の人たちが健康で、生きがいを持って、安心して生活できる社会を実現するため、講演会や脳トレ健康麻雀講座などボランティア活動を自主的に実施し、シニアの地域参加の促進と仲間づくりを支援しています。農業・ホームページ・スマホ等のグループも積極的に活動しています。基金は活動指針とする「元気シニアプロジェクトの開発と実践」全般に活用しています。



(団体の詳細)



新企画／市民活動コーディネーター講座のご案内

地域の多様な主体が連携して地域課題に取り組むことは、これからのまちづくりの課題です。多様な場面でプロジェクトを円滑に進めるコーディネーターを育成する目的で本講座を開設します。

- 【日時】①令和 7 年 11 月 22 日（土）13:30~17:00「コーディネーター概論」
② 同 年 12 月 27 日（土）13:30~17:00「コーディネーターの役割」
③令和 8 年 1 月 24 日（土）13:30~17:00「コーディネーションの技術」
④ 同 年 2 月 21 日（土）13:30~17:00「コーディネーターになろう」

【場所】パレット柏 ミーティングルーム

【対象】柏市在住・在勤・在学、柏で市民活動等の活動をしている方、これから柏で活動を始めたい方、15 名程度（最大 20 名）

【内容】全 4 回。市民が地域課題やまちのビジョンを共有し、当事者意識をもって主体的に地域活動に参画するために、多様な主体が 協働し取り組むように働きかけることができる人材の育成を目指します。全講座受講者に講座修了証を授与します。

【費用】無料

【申込み】10 月 1 日（水）午前 10 時から

※詳細は、柏市民公益活動情報「かしわん、ぼっ？」をご覧ください。

【問合せ】市民活動サポートコーナー TEL 04-7163-1143



お知らせ

サポートコーナーからのお知らせ

柏市民活動フリーマーケット・ぽかぽか市のご案内（11月23日）

市民活動団体の秋の祭典「柏市民活動フリーマーケット・ぽかぽか市」が、11月23日（日）に柏駅東口駅前通り歩行者天国ハウディモールで開催されます。

ご家族やお友達を誘って、是非お出かけください。

～秋の日や～、ひねもすのたり～のたりかな～



市民活動講座・協働まちづくりサロンのご案内（10月～12月）

《市民活動講座》

※10月～12月は開催予定なし

《協働まちづくりサロン》

第4回 10月31日（金） 柏における生涯学習と市民活動を考える

第5回 12月20日（土） 市民活動団体がつくる地域デジタル教材

まち *match* づくりステーションのご案内（10月～12月）

10月1日（水）～15日（水） たまご補助金・愛らぶ基金ポスター展

10月16日（木）～11月18日（土） 介護フェス 参加団体紹介

11月11日（火）～12月8日（月） 障がい者理解

※12月9日以降は、まだ利用予定が決まっています。柏市内で活動する市民活動団体の活動紹介や団体同士の交流・連携などに積極的にご利用ください。

申込は、パレット柏 総合受付まで ☎04-7157-0280

～編集後記～

大相撲名古屋場所で柏市出身の琴勝峰関が優勝し、またサッカーJリーグでは、柏レイソルが首位争いを演じており、柏のスポーツ界は大いに盛り上がっています。

酷暑の夏も終わり、今から爽やかな秋の「市民活動の季節」が始まります。スポーツに元気をもらって、今度は私たち市民活動団体の力で柏のまちを盛り上げましょう！

（編集：及川）



柏市民活動ニュースレター 第38号 2025年9月発行

発行者 柏市市民活動支援課 市民活動サポートコーナー

電話 04-7163-1143 FAX 04-7163-1147

メール shiminkatsudo-c@city.kashiwa.chiba.jp

